

17. 焼 板


1. ね ら い

焼板を作ることを通して、制作の喜びを味わうとともに、手づくりのよさに気づかせます。

2. 時期・時間・人数

- 年間を通じて活動可能
- 3 時間
- 屋内：50人程度（クラフトホール）
屋外：160人程度（本館炊飯場）・120人程度（屋根付炊飯場）
※ただし、用具をクラフトホールから運ぶ必要があります。

3. 準 備（よくお確かめください） ●は当所売店で購入可能です。（要予約）

自然の家で貸し出しできる物	利用者と準備する物
火ばさみ バケツ キリ ガスバーナー 用ノズル はさみ 焼板用たわし（下写真参照） 	●杉板 ●ペイント ●まき（又は●ガスバーナー用ボンベ） 軍 手 布きれ 新聞紙 マッチ  杉板とペイント ※材料の注文は <u>ご利用2週間前まで</u> に お願いします。

4. 活動内容

（1）活動の流れ

※野外炊飯と組み合わせることも可能です。〔例〕野外炊飯時→焼き、翌日→ペイント

内 容	時間
<ul style="list-style-type: none"> • 事務室に連絡して用具の貸し出しを受けます。 • 作りかたを説明します。 • 制作（①焼く②磨く③描く） • 後始末とまとめ • 事務室に連絡して用具返却の確認を受けます。 	20分 20分 2～4時間 20分 10分

（2）展開例

- ①全体の構想をまとめます。
 - どんな形のものをつくり、その用途や、図柄の段階までを考えます。
- ②その構想を実際に杉板に図案化します。
 - この時、あまり細かなものは、焼くと消えてしまうので、図案の段階で除くようにします。

- ③まきに火をつけます。（ボンベを購入すれば、ガスバーナーを使うこともできます。）
- ・風向きやまきの組み方に気をつけます。
 - ・カマドで1人ずつ自分の板を焼く場合は、1カマド10人くらいで行います。
（まきの数は、1カマド1束が目安です。）
 - ・クラフトホールで行うときは、ススが中に入ってしまうように、クラフトホールの扉は必ず閉めて行いましょう。
- ④杉板を焼きます。
- ・できるだけ裏表ともに均等に焼きます。焼きすぎると板目がきれいに出不いことがあります。
 - ・さらに焼きすぎると板がそったり、うすくなることがあります
 - ・板の角や横の部分をよく焼くようにするとやわらかな線が出ます。
 - ・板を焼いて赤くなっても水をかけたり、たたいたりしないでください。
 - ・板を数枚焼く場合は、焼き終わった板を重ねたり、燃えやすい場所に置かないようにして下さい。
 - ・板を焼き終え、板が冷えるまで、その場を離れないようにしてください。
- ⑤黒く焼けた炭の部分を焼板用たわしできれいに取ります。
- ・この作業は、粉が落ちるので屋外で行いましょう。
 - ・この作業を確実に行うことで、板目もはっきりし、ペイントののりもよくなります。
- ⑥布又は新聞紙できれいにふき取ります。きれいにふくことで、よりよいつやがでます。
- ⑦絵付けをします。板目や構図により裏表を決めます。
- ・全体にペイントを塗ることや多くの色を使用することは、焼板の素材の良さをそこなうことになるのでさげましょう。
（ペイントのセットは、1グループに1セット用意するとよいでしょう。）
- ⑧ペイントの乾燥を十分に行う。
- ・焼板の用途（置物、壁飾り等）に応じて、穴をあけたり、くさりやひも等で装飾します。
- ⑨作品の完成です。



5. 留意点

- (1) 杉板を焼く際には、やけどをしないように注意しましょう。
- (2) 清掃と後片付けをしっかりとしましょう。